

平成 25 年度 第 57 回 岩手県教育研究発表会 全体会 シンポジウム
コーディネーター（佐々木幸寿先生）によるまとめ 【要旨】

校長先生方の発言から、

大震災を経て苦勞している地域や子どもたちを何とかしたい

その延長線上として、一人ひとりの学力を保障したい といった

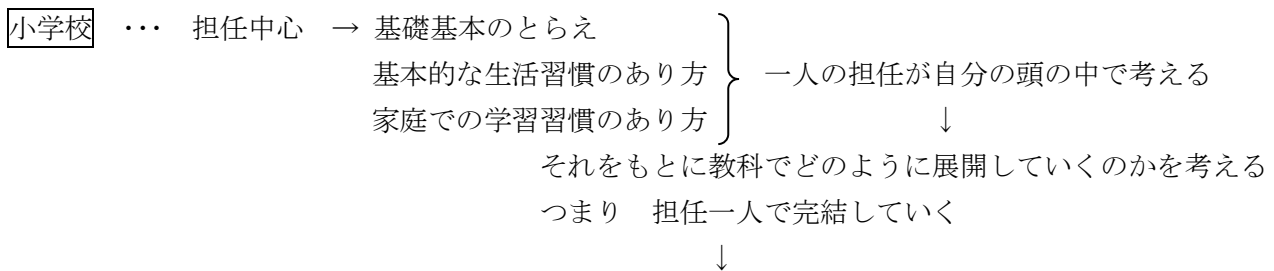
「岩手の教師としての自負をもってほしい」という思いが根底に流れていたことが感じられた。

このことを前提として3点ほど話をしたい。

1 校種の違いを自覚する必要がある

特別支援学校・・・ 一人ひとりを大切にしたい、一人ひとりに応じた指導をするという基本的な考え方を
集団を重視しがちな小・中・高等学校教員も折にふれて学ぶべき

特に、小学校と中学校・高等学校の違いを明確に自覚する必要がある



組織として取り組む上で研究体制をある程度確立できれば、
次第に一つの方向に、収斂する方向に自然に向かっていくのが小学校のシステム

これに対し、

中学校・高等学校 … 教科・分掌に分かれている

↓
基本的な生活習慣や生徒指導については生徒指導部が対応するのだ
言語活動は国語がやるのだ といった考え方になってしまう

↓
例えば： { 学校として責任を負うべき基礎基本はこれですよ
学校としての生徒指導の考え方はこうですよ
家庭学習は親に対してこういったお願いをしていきましょう

というように

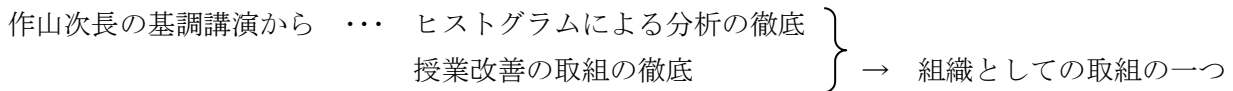
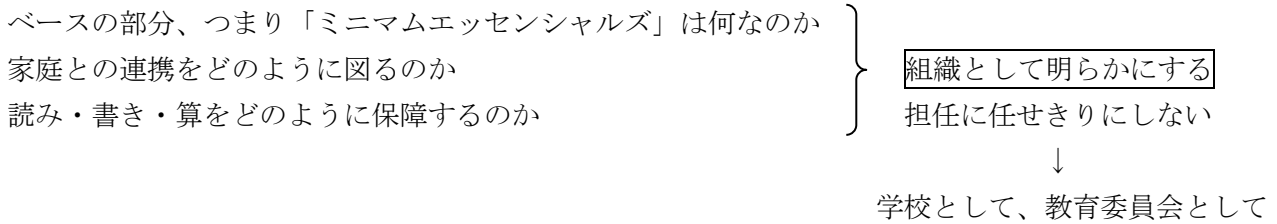
組織としてははっきり共有した上で一致して行動しなければバラバラになる
組織としてしっかりマネジメントしなければ拡散してバラバラになる
放っておけばバラバラになる

ということを自覚する必要がある

中学校・高等学校は小学校とは違う種類の組織マネジメントが必要ということ
校長先生自身がはっきり自覚する必要がある
小学校でできるから中学校・高等学校でもできる、というわけではない

2 取組を「組織」としてどのように展開していくのか

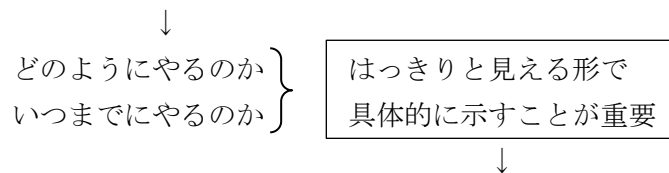
個人としてはすでに一生懸命取り組まれている → 組織としてどのように取り組むのか



3 「組織」の取組をPDCAサイクルとして可視化（見える化）していく

取組の成否を分ける

取組について議論された内容 → 立派な内容だとしてもいずれ、忘れてしまう



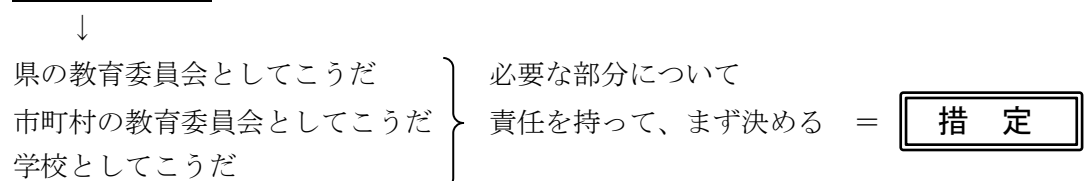
データ分析 ← その裏付けのために

- 課題を共有するための分析
 - 欠点を分析するだけでなく、「これをやればよくなるはずだ」ということが分かるような分析
 - 先生方がやる気を持って取り組むことのできる、実践で生かせるような分析
- 子どもたちの学力やパフォーマンスがどのように改善されたかを評価するための分析
 - 教師の指導改善ためではなく、あくまで子どもたちに力をつけるための授業改善

しっかりと分析した上でPDCAサイクルを回していくことが大切

余談ですが…

従来の議論 = 諸要素についての抽象的な議論 例) 基礎基本とは何か、明確な学習課題とは何か



「実践」であるから、「科学的な裏付け」を待ってはられない